

報告書抄録

ふりがな	なつみじょういせき							
書名	夏見城遺跡							
シリーズ名	ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	38-3							
編著者名	堀 真人							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番2号				
発行年月日	平成23年（2011年）3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査 面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
なつみじょういせき 夏見城遺跡	こなんし 湖南市 なつみ 夏見	25211	362-036	136度 05分 24秒	34度 59分 24秒	1,125㎡	20070420 { 20070710	県営経営体育成基盤整備事業（甲西南部2地区）
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
夏見城遺跡	集落 城跡	平安時代 室町時代		落ち込み 溝		土師器・黒色土器・瓦器 土師器・瀬戸美濃焼・信楽焼・真鍮製毛抜き		
要約	<p>本調査では、主に平安時代～室町時代の遺構・遺物が検出されている。その中でも、雑木林に残存している溝・土塁以外、実態がよくわかっていなかった夏見城関係の遺構・遺物群が明らかになったのは大きな成果といえる。夏見城関連の遺構群は、出土している遺物の年代から15世紀後半から16世紀後期前葉の時期で、主に16世紀前半代が中心である。夏見城の廃城は織田信長による甲賀攻めの時期と一致しており、『信長公記』等にかかれた石部城攻めの頃に廃棄されたと思われる。本調査で検出された溝は主に、屋敷地を区画する溝と考えられ、現在雑木林中に残っている溝を含めて5区画が確認できる。ただし、区画の奥行きに関しては、調査地の制約があり明らかにすることができなかった。当遺跡の100m北東側には、近世の東海道があり城館部分だけではなく、街道集落を含めた城館の構造の解明については今後の課題である。</p>							